

風談 炎論

商店街における セキュリティ向上は にぎわい再生にあり



淵上 善弘氏

国土交通省
都市防災対策室長

商店街にとって、にぎわいが大事だと思います。にぎわってれば、人の目も自然に確保されます。にぎわいと防犯は相反するものではないんです。当然のことですが、防犯という要素だけで、まちづくりの計画を立てることはあまりありません。

しかし、従来は防犯のためという視点が少なすぎたのかなと思います。ちょっとした工夫で防犯効果を高めることは可能なのですから。その上でネガティブな意味での防犯活動よりも、来やすくて楽しそうな、まちづくりが大切だと思うんです。道路脇に、ちょっと休めるようなベンチを設置することも、まちづくりのあり方の一つです。

未来社会への倫理と 想像力が問われている



千葉 稔子氏

東京都 環境政策部
環境政策課

地球温暖化問題は「いま、やらなくてもいいのではないか」と考えがちですが、そうではありません。

ニュートン別冊「地球温暖化」(2008年2月)によると、この10年間で北極の氷が日本列島数個分も融けているそうです。

今後、発展途上国ではエネルギー消費量が倍増するでしょう。

「今後どうなっていくのか」という未来社会への倫理と想像力が問われているのです。(事業継続対策

コンソーシアム主催の「環境&事業継続対策フォーラム」より)

デジタルコンバージェンスの 時代が到来している



松本 雅史氏

シャープ(株)
代表取締役副社長

弊社は2012年に創業100周年を迎えますが、次の2つのビジョンを掲げています。「世界No.1の液晶ディスプレイで真のユビキタス社会を実現する」「省エネ・創エネ機器を核とした環境・健康事業で世界に貢献する」。

通信端末はインフラの進化と呼応して進化しました。弊社は大中小のディスプレイを搭載した各種端末の融合を図ろうと考えています。機器間の連携で価値を創出する「デジタルコンバージェンス」の時代が到来しています。個々の価値からシステムの価値を創出する時代を迎えています。こうした時代のものづくりでは業界を超えた技術の融合が必要です。(ウィルコム、シャープ、マイクロソフト、インテルの新製品発表会より)

「不戦人間」が 大量発生している



蛭田 敬子氏

(株)アイカ 代表取締役

昔の人は家族のため親のために

働かなければならないという意識があったので、少々嫌なことがあっても我慢して働きました。

今の親は子供の世話になろうとしないので、子供に自分の人生だから自分の思い通りに生きなさいといいます。やってみただけ自分の思っていた仕事ではない。他の自分のしたい仕事をしてみたい。してみただけで、その仕事をどうしても続けたいという覚悟はないのです。そのため嫌なことがあると戦わずにすぐ逃げて次の居心地のよさそうなところを探します。「不戦人間」が大量発生しているのです。

生体認証システム 普及のポイントとは



對馬 一彦氏

クリテックジャパン(株)
代表取締役社長

生体認証システムは話題になるわりに導入率が伸びておりません。その理由は精度がよくないからです。ある金融機関が頭取室の出入口に某メーカーの生体認証システムを取り付けました。ところが、頭取の生体情報を認証せず、頭取が入室できないという事態が起きました。

生体認証システムを導入した企業等では、多かれ少なかれ類似の問題が発生しています。生体認証はカードや暗証番号のように、紛失したり忘れる心配はありません。今後、本人確認の手段として用途が広がることは間違いありません。認証精度をどれくらい上げられるか。普及のポイントはそこにあります。